

生涯学習と榴岡図書館

これまで、榴岡図書館では10年に渡り、仙台市歴史民俗資料館と連携して、多種多様なテーマで講座を行ってきました。今後も皆さんの生涯学習の発展に寄与できるよう努めてまいります。

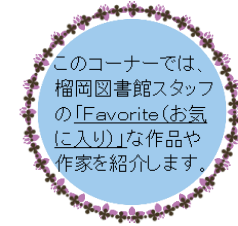
これまでの歴史

平成25年3月9日 (43人)	「仙台古地図の旅と写真旅行～古地図と古写真でたどる今昔～」 (共催：中央市民センター)
平成25年12月7日 (17人)	「正月飾りに見る祈りのかたち～おかざり・きりこ・きざみもの～」 (共催：中央市民センター)
平成26年11月29日 (18人)	「餅・モチ～ハレの食～」
平成27年12月12日 (22人)	「仙台のまちと近代交通」
平成28年12月3日 (17人)	「鉄道と木道」
平成29年11月17日 (14人)	「まちあるき歴史散歩 ひがしぐち今昔」 (共催：榴ヶ岡市民センター、東口ガイドボランティア 宮城野さん ぽみち)
平成30年12月9日 (10人)	「コメ作りの道具・昔と今」
令和元年12月12日 (22人)	「堤焼と堤人形のおはなし」(堤焼と堤人形の展示)
令和2年12月10日 (13人)	「仙台の災害 ～天災は忘れた頃に～」
令和3年10月23日(9人)	「学都と杜の都の成り立ち」
令和4年1月14日(4人)	「和の道具－食生活を中心に－」



企画展の見どころについてなどの講座

小学校の教科書改訂に合わせたミニ講座



「26文字のラブレター」

都々逸をご存知でしょうか？都々逸という言葉は聞いたことがなくても、この歌を聞いたことがある人は多いと思います。「ざんぎり頭を 叩いてみれば 文明開化の音がする」「立てば芍薬 座れば牡丹 歩く姿は 百合の花」これ、どちらも都々逸なんです。基本的には7・7・7・5の音で出来ていて、つつい口ずさんでしまう心地の良いリズム感。そんな都々逸の中から恋愛に関するものだけを集めたのが、この本『26文字のラブレター』です。

恋愛の都々逸に合わせて、現代解釈した絵が添えられています。添えられたイラストもキレイなので、イラスト集としても楽しめると思います。見開きページの右側に都々逸と解釈、左側にイラストが載っているのですが、どちらから読んででも楽しめます。イラストを見てからこんな気持ちを読んだのかな？と想像して、都々逸を読んでみるのも面白いです。私の考える解釈とちょっと違う解釈だな、と思うものもありました。でも本当に込められた意味は作った本人にはわかりません。秘めた想いを込めたのか、幸せな出来事を綴ったのか。叶わなかった想いを忘れるためかもしれません。想像することしかできませんが、いつの時代も誰かが恋をしていたんだな、と思うとなんだか気持ちがあたたかくなりました。この本で紹介されている都々逸は詠み人知らず(作者不明)の歌がほとんどです。それはもしかすると、現代にまで名の残る著名人が作ったのではなく、私たちのような一般市民が娯楽として作った歌なのかもしれません。そう考えると、都々逸がとても身近に感じられますし、それを「26文字のラブレター」と表現するなんてとてもオシャレです。また、索引もオシャレなんです。言葉から引くのではなく、いとうさんのイラストから引く索引。1冊で私が「素敵だな」と思うところがいくつもある本でした。

都々逸という言葉を楽しみ、イラストを楽しみ、1冊で何度も楽しめると思います。私は、詩や言葉遊びなどが大好きなのですが、言葉って素敵だなとまた改めて思わせてくれた1冊です。ぜひ都々逸で「言葉」を楽しんでみませんか。



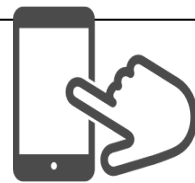
『26文字のラブレター』
絵／いとうあつき 編／遊泳舎
遊泳舎 2019.12 911.6

仙台市榴岡図書館 加藤 亜祐美

仙台市図書館のTwitterでは、榴岡図書館をはじめ、仙台市図書館に関するイベントや、展示の情報などをつぶやいています。気軽にフォローしてください。

アカウント名

@sendai_lib



発行：仙台市榴岡図書館

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 4-1-8 パルシティ仙台 4F ☎295-0880

<関連資料> 人生に役立つ都々逸読本 柳家紫文／著 海竜社 2015.7

都々逸っていいなあ 小野桂之介／著 角川文化振興財団 2021.10

どうぶつどいつドーナッツ もとしたいづみ／作 たごもりのりこ／絵 鈴木出版 2008.11